

## 第6回特別支援学校作業技能大会に参加して

高等部2年1組 S. S

私は、7月31日にビッグパレットふくしまで行われた、作業技能大会に参加しました。作業技能大会に出場するために、作業学習で練習したり、夏休み中にビルクリーニング講習会に参加して教えていただきました。ダスタークロスの種類では、きちんと拭けていない所があったので、講師の方に教えていただいて、ダスターを大きく回して拭くことができるようになりました。モップでは、角を拭くときに、モップの房を手を使って拭く方向に向けることで、隅々まできれいに拭けることを教えていただきました。

大会当日は、緊張で上手くできるか不安でしたが、練習通りにできました。結果は、ダスタークロス部門一級、モップ部門三級、テーブルクロス部門一級でした。すべて一級にはなりませんが、この経験を生かしてこれから先の生活で役に立てるように頑張っていきたいです。

高等部3年1組 R. S

陶芸班のプレゼンターとして作業技能大会に参加しました。陶芸の作業で楽しいところは、やわらかい粘土に触れたり、絵付けをしたりすることです。昨年度の製品「手の不自由な人のための皿」を引き継ぎ、さらに改良を加えて製品作りに取り組みました。実際に手の不自由な方に意見や感想を聞く為に介護施設を訪問しました。初めの頃は時間のゆとりもありましたが、大会期日が迫ってくると、製品が完成するのかとても心配でした。成形する時に粘土が固くなって割れてしまうなどの失敗も多くありました。大会当日の発表で良かったところは、製品の使いやすさの説明を実演を交えながら分かりやすく説明できたことです。その際、自信を持って発表することができました。今回の品評会では「銅賞」を頂くことができました。作業技能大会の参加は今回で三回目でしたが、大会での経験を重ねるごとに自分に「自信」を持つことができ、何事も挑戦は大切だと思いました。

高等部2年2組 K. N

私は、作業技能大会の喫茶接客サービス検定に出場しました。喫茶接客サービスは初めての出場でした。夏休みの間も登校し、練習に励みました。最初の練習はなかなか慣れなくて、動きもセリフもスムーズに出来ませんでした。しかし、先生からアドバイスをもらったり、心の中で意識したりしました。努力しているうちに、だんだんとスムーズに動いてセリフも覚えて、できるようになりました。

当日は、緊張と不安があり、声が震えて思い通りにできませんでした。しかし、終わった時はほっとしました。結果は2級でしたが、嬉しかったです。またチャレンジしてみたいと思います。



# 福祉サービス事業所見学を終えて

夏休みを利用して、進路指導に生かすために教員対象の事業所見学を実施しました。今年度は、「大生信夫の里」、「あづま授産所」「ベジワーク」「ワークセンター歩」の4事業所を見学してきました。

事業所の方に、施設の案内や、作業内容の説明をしていただき、利用者の方や卒業生が意欲的に働く姿を見ることができました。

中学部第1学年2組担当 三浦瑞姫

「ベジワーク」ではトマトの栽培、収穫、販売を行っていました。栽培はハウス栽培で行っており、1年中栽培をしているそうです。代表のお話の中で、暑い環境の中で行う仕事のため、在学中においては厳しい環境にも耐えられる気持ちを育てて欲しいということがありました。

「ワークセンター歩」では皮革製品を作り販売をしていました。製品作りを見学させていただき、細かな工程を分業型で行っていました。また、行事として2年に1回旅行をしていて、外に出て様々なことを経験しているそうです。様々な経験が利用者の自立につながるというお話も聞くことができました。今回見学させていただき、在学中に身に付けるべきことなどを考える経験となり、今後生徒と向き合う中で意識して取り組んでいきたいと感じました。

小学部コーディネーター 菅玲子

大生福祉会<sup>たいせいしのぶ さと</sup>「大生信夫の里」の、就労継続支援B型事業所「大生リコピントマト農場」は、福島市笹谷にあり、2017年12月にオープンしたばかりの新しい事業所です。トマト農場だけではなくグループホームなども併設している複合型施設で、新しくてきれいな建物はもちろん、トイレや入浴など使いやすい設備も整っていました。トマトは広々としたビニールハウスで栽培されています。また、袋詰めやラベル貼り、道具の清掃など、作業内容も利用者さんに適したものが考えられています。見学時にトマトジャムやドライトマトの試食をさせていただきましたが、甘くてとても美味しかったです。

利用者とスタッフのみなさんで収穫・出荷し、社会とつながり、働く喜びをともに感じておられる姿に、素直に感動を覚えました。これからの時代、地域のあたたかいつながりの中で生きていく大切さを思います。

小等部第5学年5組担任 鈴木菜苗

笹谷にある障がい福祉サービス・児童養育複合施設でもある「大生信夫の里」の「大生リコピントマト農場」を見学させていただきました。看護師が常駐していたり、送迎を利用したりできることから、てんかんのある方も障がいの重い方も安心して、箱詰めやラベル貼りなど一人一人が仕事を持ち、働くことができる環境に感銘を受けました。

「あづま授産所」では、利用者の方の実態に応じて、内容や支援の方法を工夫され、自信をもって仕事をしている姿が印象的でした。また、「利用者中心の施設づくり」を進めているということで、利用者の主体性を大切にしていることが伝わってきました。小学部においても、卒業後のことまで考える必要があるのだと改めて思うことができた見学となりました。

